



渋谷区立原宿外苑中学校

令和7年1月号（1月8日発行）

学校だより

<https://shibuya.schoolweb.ne.jp/haragaij>



各新聞社の元日の社説から「2025年の学校教育」を展望する

校長 駒崎 彰一

年末から3年生の高校入試に向けた面接練習を実施しています。この練習の中で、毎年、全員に新聞についての質問をしています。今年も8割を超える生徒から「新聞は読まない、ニュースはネットやテレビで・・・」という回答がありました。一般社団法人「日本新聞協会」の新聞発行部数に関する統計によると、2024年の1世帯あたりの購読部数は、数値上で半分以上の世帯で新聞を購読していないこととなる「0.5」を切って「0.45」まで減り、急激な減少を続けています。インターネットがスマホによって個人にまで普及した現在では「情報はタダ(0円)」で入手できるようになり、確実に「新聞離れ」が今後も進行していくことが時代の流れとして考えられます。

インターネット、特にSNSには、縦横無尽な情報が溢れており「ノイズ過多」であると言われていています。このような状況下では、特定の情報だけが大きく見え、別の情報が見えなくなる「プリズム効果」があり、自分の考えに近いものばかりにフォーカスがあたり、逆に関心がない分野については「視野」が狭くなってしまいう傾向があるそうです。また、最近では過去の閲覧歴や検索歴に合わせて、画面に表示される内容が変わってくる仕組み（レコメンド機能）が充実しており、入手する情報が「偏る」危険性が高いと言われていています。

このように捉えると、インターネット上の情報の選別には、情報を見極める知識とスキルが問われるため、インターネットによる情報収集は「上級者のメディア」であると考えられます。その点、新聞は世の中を知るための「基本ツール」であると言われていています。一面から順にめくっていけば、政治、経済、国際情勢、文化やスポーツ、国内・地域情報と世の中の動き全体を短時間で俯瞰できるつくりになっています。この「一覧性」は新聞の最大のメリットです。また、単にニュースを配信する「NEWS PAPER」としての「事実を知る」機能だけではなく、社説やコラムを通して様々な「見方・考え方」を知る「OPINION PAPER」としての機能があります。（このため新聞は複数紙読むと良いと言われていています。）このように捉えると「若者」は、インターネットより新聞を利用して「情報収集」する力を鍛える必要があるのではないのでしょうか。

15年程前に上司（当時K区教育長）から、新聞には「様々な課題を乗り越えるヒントがある」と読むことを勧められるとともに、特に元日の五大全国紙の「社説」について、「深読み」することを勧められ、それ以来、年始の恒例の取組としています。（毎年、五大全国紙：読売・朝日・毎日・日本経済・産経に加え、東京新聞を深読みしています。）

「社説」は、政治・経済・社会などの時事問題について、各新聞社の主張や考えを各社の責任において掲載するもので、日本の「現時点」の「見方・考え方」をタイムリーに捉えるものです。新年元日、各新聞社の「社説」を深読みすることで、2025年の「学校教育」について考えていきたいと思ひます。



各紙の年頭の「社説」の冒頭の文章を捉えることで、日本（世界）の現時点の状況を捉えることができると言われています。2025年の各紙の冒頭文は以下の通りです。

○ 思いもかけない出来事が次々と起きる。世界は歴史の変動期のただ中にある。（読売）

- 胸騒ぎがする。波乱が起きる予感が。それが何かはわからない。いつにも増して先が見えない年が、明けた。(朝日)
- 第二次世界大戦の終結から 80 年となる 2025 年を迎えた。戦火は広がり、国際社会の分断が深まる。強者が弱者を力でねじ伏せる「ジャングルの掟」の時代に、時計の針を巻き戻してはならない。(毎日)
- 不確実性という霧につつまれた 2025 年が始まった。(日本経済)
- 今年は、日本の未来と過去を守らなくてはならない年になるだろう。(産経)
- 1 年前、能登半島地震が発生。「よりもよって元日に…」と天を仰いだ。その 8 カ月後には、よりもよって、その能登を豪雨災害が襲う。壊された暮らしや仕事の復興が順調に進むよう願ってやまない。(東京)

まさに VUCA(ブーカ)の時代。物事の不確実性が高く、将来の予測が困難な状況に突入したという事が読み取ることのできる冒頭文です。VUCA とは、Volatility(変動性)、Uncertainty(不確実性)、Complexity(複雑性)、Ambiguity(曖昧性)の頭文字です。2025 年スタートの社説は、VUCA の時代を乗り越えるためのヒントが多く論じられています。

読売新聞では、「平和と民主主義を立て直す時 協調の理念掲げ日本が先頭に」と題して、「自国第一をめざすにしても、他国との協調が必要なのだ。日本国憲法前文は『いずれの国家も、自国のことのみ専念してはならない』と謳っている。理想の表明のように聞こえるが、実は極めて現実的な事実でもある。この理念を実際に体現してきた日本こそ、国際協調を訴える行動の先頭に立つにふさわしい。」とまとめています。

「協調」というキーワードが示されています。「多様な他者と協調すること」学校教育で育成すべき重要なスキルであると捉えています。今年も協調(collaboration)するスキルを強化していきたいと思えます。

さらに、「民主主義は、健全な判断力を持った公衆が選挙によって代表を選び、政治の意思決定を行うシステムである。その公衆の判断が、インターネット(SNS等)の個人の気ままな情報発信で狂わされたら、民主主義は危機に陥る。誤った情報によって自由な意思形成が妨げられるということは、『自由の危機』といわなければならない。」として「自由は、他者との関係性で成り立つ『社会的自由』である。他者の自由の尊重、つまり節度や責任と一体の関係にあるのだ。」とまとめています。

「自由」・・・現在の学校教育に求められるキーワードであると捉えています。まさに「社会的自由」が重要であり、他者の自由の尊重、つまり「節度」や「責任」が一体となった「自由」を目指してきたいと思えます。「健全な判断力」を持つ生徒たちが意思決定することができる自由な学校を！

朝日新聞では、「昨年のノーベル経済学賞を受賞した米経済学者ダロン・アセモグル氏の論考を手がかりに、『自由』で繁栄した国の実現には、権力機構である『国家』と、市民が成す『社会』が拮抗して成長することが必要だとアセモグル氏は説く。放置すれば『国家』は市民を押しにかかる。『社会』の側が国家を監視し、足かせをはめる必要がある。しかも両者が均衡する『回廊』は、とても狭いという。」とまとめています。さらに、「アセモグル氏は 5 年前、日本の課題として『人々が社会の足元から変化を促そうとする動きが弱い。約 25 年間も停滞を経験したのに、反発する運動が起こらなかったのは驚くべきことだ』と語っている。有権者の側が変調や逸脱から目をそらさない。しっかりと声を上げる。強靱な日本の社会を築く。そんな年にしたい。」としています。

当事者として、すべての者が現在の状況について変調や逸脱から目をそらさずに真剣に考えるスキルを育成する必要があると捉えました。

毎日新聞では、「自国第一」が幅を利かせる世界を「人道第一」へと軌道修正する必要があるとして、「他者への共感で暴力と憎悪の連鎖を断ち切り、対話を通じて争いを解決する。そんな『人間らしい社会』を再構築できるか。人類に突き付けられた重い問いである。」とまとめています。

「人道第一」・・・1人1人に焦点を当て、恐怖・欠乏などの脅威からの保護と尊厳を持って生きられ

る自由を追求することを第一に、「他者への共感」「対話」を通じて「人間らしく」課題を解決するスキルを育成することが必要であると感じました。

産経新聞では、「未来と過去を守る日本に」と題して、「今年は、日本の未来と過去を守らなくてはならない年になるだろう。」としています。子供は「未来社会の守護者」であると捉えています。過去を学び、未来社会を真剣に考えるスキルを育成したいと思います。

日本経済新聞では、「変革に挑み次世代に希望つなごう」と題して「すくんでいるだけでは未来は開けない。危機は変革の生みの親だ。分断や混乱に臆することなく、時代の変化に合ったより良い秩序作りに挑み、次世代に希望をつなぐ道筋をつけたい。激しい変化に身をすくめ、荒波が過ぎるのを待つ。そんな守りの発想を日本人はとりがちだ。だが課題はそれだけでは解決しない。ピンチをチャンスにいかに変えるかという、しなやかな発想と知恵こそが問われている。」として「加速する地球温暖化、乱れる自由貿易の秩序、核も絡み危うさを増す地政学的な緊張など、世界的な協調を必要とする懸案は数限りない。そのためにも次世代への責任を意識した熟議を各分野で進めることが不可欠だ。断片的で不正確な情報や主張の氾濫が社会や政治を乱すことへの注意は必要。少子高齢化や地方の疲弊など日本の課題は尽きない。だが変化にしなやかに応じる潜在力もなお高いはずだ。人工知能（AI）や半導体など将来に通じる技術を生かし、競争力を磨いてほしい。将来不安を減らすことで人々も自信を取り戻し、未来への攻めの道を切り開ける。新しい年をそんな歩みの始まりにしたい。」とまとめています。

「Don't think . Just do !HarajukuGaien やっちゃえ！原宿外苑」・・・荒波が過ぎるのを待つのではなく、しなやかな発想と知恵で「ピンチをチャンスに」とにかくやってみる！という姿勢を今年も続けていくとともに、様々な面で、次世代への責任を意識した「熟議」を進めていきたいと思います。

最後に関東地方のブロック紙ではありますが東京新聞では、「年のはじめに考える あわてない、あわてない」と題して「時間は無限でも寿命は有限だからか、私たちは何事であれ急ぎがち。『急いで事は仕損じる』のような諺から TV アニメの一休さんの口癖『あわてない、あわてない』に至るまで、性急を戒める言葉が多い。情報通信等のスピードが速くなる今、私たちのせっかちさが増していても不思議はない。それは『タイムパフォーマンス』という言葉の流行からも想像がつく。タイパを求めるなら、一番は独裁制。権威主義の意思決定のスピードは民主主義と段違い。結局、私たちに必要なのはタイパの悪さを辛抱し、まどろっこしさを受け入れる雅量。せっかちに結果を求め、性急に判断する傾向を強めると、社会は権威主義に近寄ってってしまう。あの一休さんの決まり文句。タイパの魔を振り払うのには、絶好の呪文かもしれません。」とまとめています。

「あわてない、あわてない、ひと休み、ひと休み」焦らず、じっくり、タイパの悪さを辛抱し、まどろっこしさを受け入れる雅量をもって、学校教育を展開していきたいと思います。

しぶや区ニュース「短距離で世界を目指す中学生、夢へのスタートライン」

12月15日号で陸上競技部3年の村上永遠さん、コーチの水野龍彦さんが特集されました！



https://files.city.shibuya.tokyo.jp/assets/12995aba8b194961be709ba879857f70/37dc910db8a1426b8e3ab2b349e620ce/241215_web_baru.pdf

越前和紙 紙すき体験

今年も福井県の協力により、日本の伝統文化であり重要無形文化財にも指定されている越前和紙の紙すき体験を実施しました。今年も「IMADATE ART FIELD」(今立現代美術紙展) 実行委員長の増田 頼保 氏 より道具と資材を送っていただき、全校で1つの作品を制作。作品は、なみき祭の展示発表の部にて公開します！



東京マラソン財団 コラボ企画 東京マラソン体験プログラム「ミニ東京マラソン」(2年生)

東京マラソンのコンセプトである「走る喜び(ランナー)、支える誇り(ボランティア)、応援する楽しみ(観戦者)」に沿った東京マラソンの疑似体験を通じて、スポーツの様々な楽しみ方や魅力を伝える特別授業。

元陸上競技長距離選手で1996年アトランタオリンピック(7位入賞)と2000年シドニーオリンピック(10位)共に女子10000m日本代表として活躍した川上優子さんから長距離走の基本「姿勢・腕振り・リズム」3つのポイントを指導していただき、多くの豪華スタッフの皆様を支えられての授業となりました。

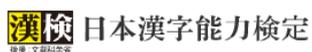


ランニング情報サイト「RUNNING STREET 365」に紹介されました
<https://runningstreet365.com/racereport/42753>

AI文章推敲ツールを使った「自己PR文」作成（3年生）

3年生が漢字能力検定協会と青山学院大学にて共同研究中の「AIツール」を使って、仲間と collaborationしながら、受験で利用する『自己PR文』を作成することに挑戦しました。

「AIツール」は、自分で考えて、自分の言葉で表現するための、あくまで「サポートツール」です。AIだけに頼ってコピーして完成した『自己PR文』では・・・これを利用した面接試験で言葉に詰まったり、自分が何を書いたか分からなくなったり、困ってしまうはずです。そこで今回の授業では、「AIツール」によってつくられた文は、デジタルワークシートに一度コピーして記録し、仲間と対話しながら自分らしい文章づくりを進めていきました。



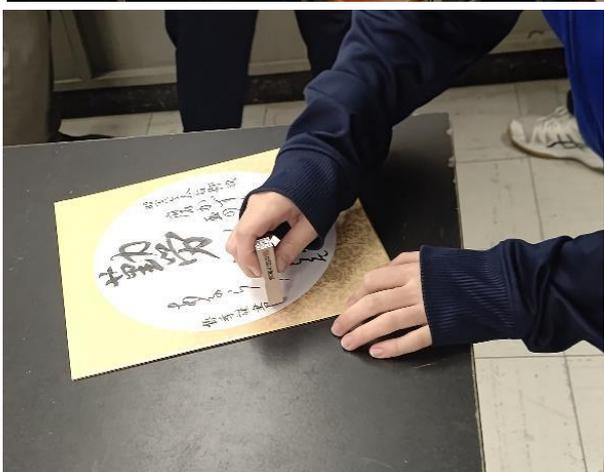
漢検と青山学院大学が共同で「AI時代の子どもたちの言語能力」を育成するための研究を開始

<https://kyodonewswire.jp/release/202412171824> (共同通信)

AIドリル教材等とは異なるアプローチ方法を検討し、「ことばの運用場面」を通して漢字・日本語の能力を育み評価する方法について検討していく研究

明治神宮コラボ企画 おみくじ書写会（3年生）

明治神宮のおみくじには、明治天皇や昭憲皇太后の和歌が書かれています。明治神宮ミュージアムにおいて1階のスペースを利用して、明治天皇や昭憲皇太后の和歌の書写会が定期的に行われています。和歌が詠まれた背景などについて学んだ後、明治神宮のおみくじに含まれる和歌（10首）から一首を選び色紙に和歌を書写。そして、それぞれの気持ちのこもった色紙を手に、神前で参拝するといった書写会です。今回は、この書写会を本校で特別に実施していただけるというスペシャルな企画になります。完成した作品を奉納・参拝までの特別授業です。完成した作品は「なみき祭（展示発表の部）」で展示する予定です。



給食充実！ 4つの給食プロジェクトを12月に展開

広尾にあるクロアチア共和国大使館とのコラボ給食

MEAT BALLS IN TOMATO SAUCE WITH MASHED POTATOES & CHICKEN RAGOUT SOUP



渋谷ワンダフル給食プロジェクト「豚ロースのあんかけ御飯」

ワンダフル給食も第4弾。今回は中国料理の排骨飯（パイコーハン）をアレンジした、あんかけ御飯。



原宿外苑ワンダフル給食プロジェクト「いも天」

原宿外苑で育てたものを原宿外苑でいただく。究極の「地産地消」である「原宿外苑ワンダフル給食」プロジェクト。3年生が原宿外苑「干芋」プロジェクトで育てた「紅はるか」の規格外サイズの芋と「どっぷり高知」給食週間で余ったイモ天粉を使用しました。



地域飲食店とのコラボ給食 リコカレーとのコラボ企画

バターチキンカレー&キーマカレー ピクルス 卵のアチャール

地域の飲食店とのコラボ企画第2弾。今回は人気のリコカレーです。

ricoCurry

rico curry (リコカレー)

<https://www.rico-curry.com/>

リコプア (rico pua)



表彰

【バスケットボール部】

- 男子 渋谷区中学校バスケットボール新人大会 優勝
 優秀選手賞 溝口 琉太、加賀谷 恒輔
 第21ブロック中学校バスケットボール新人大会 第2位（都大会進出）
- 女子 渋谷区中学校バスケットボール新人大会 第2位
 優秀選手賞 田村 桃
 第21ブロック中学校バスケットボール新人大会 第2位（都大会進出）

今月の 予定	日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3	4
				元日			
	5	6	7	8	9	10	11
			冬季休業日 (終)	職員会議・研修会			
	12	13	14	15	16	17	18
		成人の日			安全指導		なみき祭展示
	19	20	21	22	23	24	25
		TLD	避難訓練				
	26	27	28	29	30	31	
			職員会議・研修会				

来月の 予定	日	月	火	水	木	金	土
							1
	2	3	4	5	6	7	8
		スキー教室 (2) (始)		スキー教室 (2) (終)			土曜授業 CS 新入生保護者 説明会
	9	10	11	12	13	14	15
		校外学習(1)	建国記念の日	渋中研発表 TLD	学校保健委員会 安全指導		
	16	17	18	19	20	21	22
		TLD	避難訓練	職員会議・研修会			
	23	24	25	26	27	28	
	天皇誕生日	振替休日	期末考査	期末考査	期末考査		